

小川保育園 保育研修会

令和6年11月8日（金）

＜保 育 者＞ 4歳児 きりん組 担任 小松あゆみ 保育士 平野幸至郎 保育士
＜研修テーマ＞ 子どもが遊びを楽しむための関わり
＜ね ら い＞ 思いを出し合って遊ぶことを楽しむ。

笑顔いっぱい！わらべうた

園庭に出ると、数人の子どもたちが集まり、保育者と一緒にわらべうたで遊び始めました。輪になるとお互いの顔が見え、楽しい気持ちも倍増します。保育者が、一緒に歌ったり、次の動きを行動で示したりして、繰り返し遊び、子どもも保育者も笑顔でいっぱい！保育者と一緒に楽しんだ経験を重ねたことで、その後は、保育者がいなくても、子どもたち同士で鬼を決め、遊び続けていました。

♪な～んのおと～

♪な～んのおと～



どんぐりを転がしたい！

散歩で拾ってきたどんぐりをどうしたいかと保育者が問いかけると「転がしたい！」という気持ちがふくらみ、遊びが始まりました。初めは、壁面に筒状の廃材をつなげて貼り、その中を転がしていましたが、どんぐりが転がる様子が見えないため、筒を半分に切ってみることに…保育者は安全に道具が使えるよう見守ったり、布テープが自分で切れるよう段階を踏んで援助したりと、子どものやりたい気持ちを支えていました。子どもたちは、切った廃材を壁面に貼ったりはがしたりしながら、どうすればどんぐりがスムーズに転がるか試行錯誤し、遊びの中で学びを深めていました。



子どもの思いを
丁寧に受け止めて
います。



事後研修会（講師：静岡県立大学短期大学部こども学科 講師 甲賀 崇史氏）



- ・共鳴とは、子どもと同じ思いに立ち、子どもと同じ「やってみよう」という意志をもって、目標に向かっていくこと。共感を超えて共鳴する関わりをしていくことで、「やってみよう」（意欲）を「やってみよう」（態度）へつないでいく。
- ・4歳は、モノとモノ、事象と事象を関係づけ、そこにはどんな論理があるのか試行錯誤することが楽しい時期である。子どもそれぞれの方向性を共有する関わりをしていく。
- ・子どもが個々に思いを出しているとき、出ている意見をつなぐ関わりをしていくことで、子ども同士がつながり、意見を出し合う状況になっていく。



事後研修会に、
他園や小学校の先
生方が参加してく
ださいました。